

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆7月の景気動向指数1.7ポイント上昇「改善」の判断を維持

・内閣府が発表した7月の景気動向指数(速報値)は足元の経済状況を示す一致指数(2020年=100)が120.6と前月から1.7ポイント上がった。2カ月連続の上昇。基調判断は「改善を示している」で据え置いた。3カ月移動平均は前月から0.77ポイント上昇。7カ月連続のプラス。投資財出荷指数や商業販売額(小売業)など5つが指数を押し上げた。

◆個人向け国債、ネット証券販売4倍超に 若年層が担い手に台頭

・ネット証券が個人向け国債の販売を伸ばしている。主要4社の2026年1～6月の販売額は5400億円超と前年同期の4.4倍に。利回りを確保できる安全資産として若年層を中心に投資家の裾野が広がっている。個人向け国債を取り扱うSBI証券、楽天証券、三菱UFJ eスマート証券、マネックス証券の1～6月の販売額を調べた。

◆8月末の外貨準備6.2%減、減少率最大 日米協調の為替介入反映

・財務省が発表した8月末の外貨準備高は7月末比6.2%減の1兆2075億ドル(約188兆円)。基準改定があった2000年4月以来で減少率は過去最大。政府・日銀が実施した為替介入の原資になり大幅に減少。外貨準備高は4カ月連続で減少。8月末の減少額795億ドルは過去最大。外国債券などの証券が大きく減った。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆国交省、27年度概算要求で「みらいエコ2027」に2000億円

・国土交通省は2027年度予算の概算要求で、一般会計に8兆7694億円(25年度当初予算比1.44倍)を要求。住宅局関係の要求額は4187億円(前年度比2.43倍)。災害対策や住宅ストックの活用、脱炭素・省エネ対策の推進など。脱炭素・省エネ分野では、みらいエコ住宅2026事業の後継となる「みらいエコ住宅2027事業」に2000億円を要求。

◆26年度建設投資、2.9%増の81.4兆円と予測 住宅は1.8%増

・国土交通省が公表した2026年度の「建設投資見通し」によると、建設投資の総額は前年度比2.9%増の81兆4700億円となる見通し。住宅投資は官民合わせて同1.8%増の18兆4800億円になる見込み。建設投資の内訳は、政府投資が26兆6000億円(同0.6%増)、民間投資が54兆8700億円(同4.1%増)となり、民間投資が全体の67%を占める。

◆三井不動産、築50年超の賃貸住宅再生 再利用率高めて建築費30%削減

・三井不動産は既存躯体の約80%を再利用する手法を使い、築50年を超える共同住宅を再生させたと発表。同規模の建て替えと比べて建築費を約30%、二酸化炭素(CO2)排出量を約60%削減。設計事務所の青木茂建築工房が提供する「リファイニング建築」を活用した老朽化不動産再生コンサルティングサービスを通じ、再生。8月に竣工した。

《 注目商品 》

■DAIKEN、「OAフロア」向けの土足対応天然木床材「オフコレフロア」

・オフィスで広く採用されている二重床構造「OAフロア」向けの土足対応天然木床材『オフコレフロア』を発売。必要な箇所のみを容易に取り外せるようにすることで、OAフロアの仕上げ材に求められる床下配線へのアクセス性、メンテナンス性を実現した床材。



■グロエ、ミニマルな浴室水栓「アリュール」

・プレミアムサブブランド・GROHE SPAのバスルーム水栓「ALLURE(アリュール)」シリーズから新たに4色を発売。アリュールシリーズは、正方形のプレートと円柱形を組み合わせたミニマルかつ洗練されたデザインが特徴の浴室・洗面用水栓。



■サンゲツ、接着剤・釘不要の工法を採用した床材 ハイブリッドフローリング

・ベルギーのユニリン社が開発したジョイントシステム「UNICLIC(ユニクリック)」により、接着剤や釘を使用しないフローティング工法を採用した木質床材。木目調の優れた意匠性と撥水コーティングによる防水性を兼ね備え、水まわりにも適用。

